新潟市潟環境研究所　平成２８年度第１回定例会議（概要）

日時：平成２８年４月２８日（木）午後３時～午後５時１５分
場所：新潟市役所対策室１

■会議概要

１　報告及び情報提供

・平成２８年度潟環境研究所体制について（潟環境研究所事務局）
・平成２８年度潟に関する主な事業・取り組み予定について（潟環境研究所事務局）
・平成２８年度の定例会議内容について（潟環境研究所事務局）
・「福島潟一周ウォーク」（5/15 開催）について（水の駅「ビュー福島潟」）
・潟の魅力創造市民活動補助金について（文化創造推進課）
・市民ハクチョウ調査結果について（環境政策課）
・特別展「新潟の米作りの歴史を知ろう」について（新潟市歴史博物館）

２　ＤＶＤ『潟の記憶』完成・公開について（潟環境研究所事務局）

３　講義「 六郷ノ池について 」

六郷池組合会長/佐藤　譲
六郷自治会長/山﨑　孝雄
六郷自治会副会長/細貝　正人

【基本情報】

・六郷ノ池は阿賀野川の左岸堤防で、新潟県道１７号新潟村松三川線沿いにある。
・水面積は約 1.6 ヘクタール。水の流入は、南側から大きな水路を通じて農業排水が、北側東岸の小さな水路から集落の排水が流れ込んでいる。また、北側の池尻から池の水が流出している。
・池の東西の両岸はコンクリート護岸で整備されているが、南北の浅場には葦が生えている。南側には侵食対策としてコンクリートブロックの敷設を行っている。北側では昨年、「六郷堤防浸透対策工事」により堤防からの雨水を池に落とすための排水口と周辺部の侵食防止用玉石の敷設工事が行われた。
・池の所有に関して、現在は、六郷の住民計 11 名が池を所有している。
・旧土地台帳には明治 22 年に登記が行われている。旧土地台帳には「鍬下開墾目的畑」という記述があることから、その頃、開墾の許可を得て、個人所有になったと思われる。
・六郷ノ池は、阿賀野川の旧河道である。旧河道と堤防が接するあたりに「切所」という小字がある。

・昔は「ひょうたん池」と呼ばれていたという。明治 44 年の地図をみると、ひょうたんを思わせるような池のかたちがわかる。

【池の変遷】

・第一期阿賀野川改修工事の契機となった、大正２年の大洪水で旧河道に濁流が流れ込み、周囲が削られて今のような形状になったと推測できるが、定かではない。

・大正４年から始まって昭和８年に竣工した第一期阿賀野川改修工事で築堤が行われ、堤防側の北側の一部が埋め立てられた。六郷は微高地だったこともあり、川側には堤防がなかったが、この工事で堤防ができた。

・昭和 11 年頃に六郷開田耕地整理組合が創設され、六郷の畑や桑畑の土を池に運搬して埋め立てが行われ、周辺に水田が造成された。

・昭和 57 年頃から、「農村総合整備モデル事業」の一環として、水路整備、護岸整備、公園の整備が行われ、駐車場や東屋ができた。平成 5 年には堤防からカントリーエレベーターへの道路が整備され、池尻が少し埋め立てられた。

・両新地区圃場整備事業が始まった平成 14 年まで農業用水として利用された。

【昔の六郷ノ池の様子】

・昭和 36 年頃までは、年に２回、五泉市高山の漁師たちに池に来てもらって漁を行っていた。池でとれるフナ、コイ、ライギョは貴重なタンパク源だった。漁獲の半分は網元が、残りの半分を池主の 11 名で分け合っていた。

・ヒシが生えていたが採集して販売するなどはしていなかった。近所の人が採って食べていた程度。

【現在の池の管理について】

・池の管理は池組合の 11 名で行っている。主に、池周辺の草刈、ゴミ拾い、側溝の泥上げなどを年に５， ６回おこない環境整備につとめている。

・ヘラブナが釣れることから、池には多くの愛好家が訪れている。昭和 40 年頃から「新津へら鮒釣研究会」による放流を認めるようになった。昭和 53 年には放流および漁獲の権限を与える契約書を交わしている。

【課題】

・夏場にはオオマリコケムシと思われる寒天質の球体が見られるようになった。イカリムシが寄生したためなのか魚に赤い斑点ができたり、酸欠のためか魚が死んで浮き上がるといったことも発生している。

・現在では、用水がほとんど入らなくなった。そのため、水質の悪化を懸念している。